

充水装置(主バルブ)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器・・・○
- *2 機能上著しく影響あり・・・a
機能上影響あり・・・b
機能上影響なし・・・c
- *3 点検 E：目視、M：測定、H：触診・指触
S：聴診・聴覚、D：動作確認、W：分解
- *4 トレンド管理をする必要がある・・・○
- *5 点検条件・・・前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う・・・○
地震時のみ・・・(地)
落雷時のみ・・・(雷)
洪水時のみ・・・(洪)
- *7 整備 A：調整、X：交換、U：補修
- *8 G：良好あるいは異常なし
N：異常(要処置(保全整備))
-：内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	充水装置(主バルブ)			ゲート形式	電動仕切弁(150A×2)				充水装置				
設備に要求される機能				締切操作ができること。									
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				*8 判定	備考		
	*1 重要 機器	*2 影響 度合				定期	不定期	*6 臨 時 合 計	判定方法				
					月 点 検	年 点 検							
全 般	c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。			
	b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。			
	b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。			
充 水 装 置	b	構造全体	振動		中	H	H (地)	H	H	異常振動がないこと。			
	b		異常音		中	S	S (地)	S	S	異常音がないこと。			
	a		止水部		中	E	E (地)	E	E	漏水がないこと。			
	○	b	電動弁	作動		中		D		D	円滑に開閉できること。		
		b		漏水		前		E		E	機能上支障がないこと。		
		b		損傷		前	E	E (地)	E	E	損傷がないこと。		
		b		振動		中	H	H		H	異常振動がないこと。		
		b		異常音		中	S	S		S	異常音がないこと。		
		b		電流値		○	中	E	M (雷)	M	M	大幅な変動がなく、定格電流値以下であること。	
		b		電圧値		○	中	E	M (雷)	M	M	作動時の定格電圧が、±10%以下であること。	
	a	絶縁抵抗		○	断		M (雷)	M	M	絶縁抵抗計にて測定を行い、1MΩ以上あること。			
	b	手動弁	作動		前		D		D	D	円滑に開閉できること。		
			漏水		有水		E		E	E	漏水のないこと。		
			損傷		前	E	E (地)				割れなどの損傷がないこと。		
	b	差圧計	作動		中		D		D	D	圧力計、差圧計が正常に作動していること。		
			漏水		有水		E		E	E	配管より漏水のないこと。		
			エア抜き		有水		D		D	D	エア抜きバルブより水が噴出すること。		
	b	充水管	漏水		前		E		E	E	漏水のないこと。		
			損傷		前		E (地)		E	E	著しい損傷がないこと。		
			充水時間		中		M		M	M	所定時間内で充水できること。		
	○	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H (地)	E,H	E,H	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。		
損傷				前	E	E		E	E	損傷がないこと。			
腐食(孔食)				前		E		E	E	腐食(孔食)がないこと。			

充水装置(副バルブ)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器・・・○
- *2 機能上著しく影響あり・・・a
機能上影響あり・・・b
機能上影響なし・・・c
- *3 点検 E：目視、M：測定、H：触診・指触
S：聴診・聴覚、D：動作確認、W：分解
- *4 トレンド管理をする必要がある・・・○
- *5 点検条件・・・前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う・・・○
地震時のみ・・・(地)
落雷時のみ・・・(雷)
洪水時のみ・・・(洪)
- *7 整備 A：調整、X：交換、U：補修
- *8 G：良好あるいは異常なし
N：異常(要処置(保全整備))
-：内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		充水装置(副バルブ)		ゲート形式		電動仕切弁(150A×2)				充水装置			
設備に要求される機能		締切操作ができること。											
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				*6 臨 時 合 計	判定方法	*8 判定	備考
	*1 重要 機器	*2 影 響 度 合				定期	不定期	月 点 検	年 点 検				
全 般	c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。			
	b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。			
	b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。			
充 水 装 置	○	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。			
			異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。			
			止水部		中	E	E	(地)	E	漏水がないこと。			
	○	電動弁	作動		中		D		D	円滑に開閉できること。			
			漏水		前		E		E	機能上支障がないこと。			
			損傷		前	E	E	(地)	E	損傷がないこと。			
			振動		中	H	H		H	異常振動がないこと。			
			異常音		中	S	S		S	異常音がないこと。			
			電流値		○	中	E	M	(雷)	M	大幅な変動がなく、定格電流値以下であること。		
			電圧値		○	中	E	M	(雷)	M	作動時の定格電圧が、±10%以下であること。		
	a	絶縁抵抗		○	断		M	(雷)	M	絶縁抵抗計にて測定を行い、1MΩ以上あること。			
	○	手動弁	作動		前		D		D	円滑に開閉できること。			
			漏水		有水		E		E	漏水のないこと。			
			損傷		前	E	E	(地)		割れなどの損傷がないこと。			
	○	差圧計	作動		中		D		D	圧力計、差圧計が正常に作動していること。			
			漏水		有水		E		E	配管より漏水のないこと。			
			エア抜き		有水		D		D	エア抜きバルブより水が噴出すること。			
	○	充水管	漏水		前		E		E	漏水のないこと。			
			損傷		前		E	(地)	E	著しい損傷がないこと。			
			充水時間		中		M		M	所定時間内で充水できること。			
	○	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。			
損傷				前	E	E		E	損傷がないこと。				
腐食(孔食)				前		E		E	腐食(孔食)がないこと。				

水位低下用主バルブ

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E：目視、M：測定、H：触診・指触
S：聴診・聴覚、D：動作確認、W：分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A：調整、X：交換、U：補修
- *8 G：良好あるいは異常なし
N：異常(要処置(保全整備))
-：内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		水位低下用主バルブ		ゲート形式		ジェットフローゲート(φ300×1)								
装置区分		設備に要求される機能		放流時に確実な放流量調節操作、締切り操作ができること										
		点検・整備		点検 *3										
		*1 重要機器	*2 機能影響度に対する	項目	内容	*4 トレンド管理	*5 点検条件	定期		不定期		判定方法	*8 判定	備考
			合					月点検	年点検	*6 臨時	総			
全般	c		清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。			
			b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。		
					劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白垂化がないこと。		
本体	b		構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。			
				異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。			
	a		スキンプレート	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。			
				損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。			
				板厚の減少		休・無水				M	測定結果により判定のこと。			
				腐食(孔食)		休・無水		E		E	腐食(孔食)がないこと。			
				溶接部の割れ		休・無水		E		E	割れがないこと。			
	a		主桁、補助桁	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。			
				損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。			
				板厚の減少		休・無水				M	測定結果により判定のこと。			
				腐食(孔食)		休・無水		E		E	腐食(孔食)がないこと。			
				溶接部の割れ		休・無水		E		E	割れがないこと。			
	a		シールリング	損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。			
				変形		休・無水		E		E	変形がないこと。			
	a		ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		休・無水		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。			
損傷					休・無水		E		E	損傷がないこと。				
腐食(孔食)					休・無水		E		E	腐食(孔食)がないこと。				
a		摺動板	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。				
			損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。				
	b		ボンネット ボンネットカバー	変形		前		E		E	変形がないこと。			
				摩耗		前		E		E	摩耗がないこと。			
				損傷		前		E		E	損傷がないこと。			
	a		ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。			
損傷					前	E	E		E	損傷がないこと。				
腐食(孔食)					前		E		E	腐食(孔食)がないこと。				

水位低下用主バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
N:異常(要処置(保全整備))
-:内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		水位低下用主バルブ		ゲート形式		ジェットフローゲート(φ300×1)				開閉装置			
設備に要求される機能		確実に開閉操作ができること											
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				判定方法	*8 判定	備考	
	*1 重要 機器	*2 影 響 能 度 に 対 す る				*5 点 検 条 件	定 期		不 定 期				
						月 点 検	年 点 検	*6 臨 時	総 合				
全 般	c		清掃状態	汚れ		前	E	E	E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。			
	b		塗装	損傷		前	E	E	E	損傷がないこと。			
	b			劣化		前		E	E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。			
構 造 体	b		構造全体	振動		中	H	H	(地) H	異常振動がないこと。			
	b			異常音		中	S	S	(地) S	異常音がないこと。			
	b		架台	たわみ		前		E	(地) E	たわみがないこと。			
	b			変形		前		E	(地) E	変形がないこと。			
	b			溶接部の割れ		前		E	(地) E	割れがないこと。			
	b		ボルト・ナット	ゆるみ、脱落		前		E、H	(地) E、H	ゆるみ、脱落がないこと。			
	b			損傷		前	E	E	E	損傷がないこと。			
	b			腐食(孔食)		前		E	E	腐食(孔食)がないこと。			
	動 力 部	b		電動機	振動		中	H	H	H	異常振動がないこと。		
b			異常音			中	S	S	S	異常音がないこと。			
a			温度上昇			○	中	H	M	M	異常な温度上昇がないこと。		
b			電流値			○	中	E	M	(雷) M	大幅な変動が無く、定格電流値以下であること。		
b			電圧値			○	中	E	M	(雷) M	作動時の定格電圧が、±10%以下であること。		
a			絶縁抵抗値			○	断		M	(雷) M	絶縁抵抗計で測定を行い、1MΩ以上のこと。		
a			内部状態		休				W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。			
○			手動装置	作動状況		中	D	D	D	D	円滑に開閉操作ができること。		
b		操作力			中		M	M	M	操作力が100N以下であること。			
制 動 部	b		制動機構(セルフロック)	作動状況		前			D	扉体が降下しないこと。			
減 速 装 置	b		本体(減速機)	振動		中	H	H	H	異常振動がないこと。			
	b			異常音		中	S	S	S	異常音がないこと。			
	a			温度上昇		中		H	M	M	異常な温度上昇がないこと。		
	a			漏油		前	E	E	(地) E	E	漏油がないこと。		
	a			潤滑油量		前	E	E	E	E	油面計の規定内であること。		
	a			潤滑油劣化		前		E	E	E	ひどい濁りが無く、乳白色化していないこと。		
	a			内部状態		休				W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。		

水位低下用主バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
 *2 機能上著しく影響あり ……a
 機能上影響あり ……b
 機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
 S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
 *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
 有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
 地震時のみ ……(地)
 落雷時のみ ……(雷)
 洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
 N:異常(要処置(保全整備))
 -:内容の実施なし
 塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		水位低下用主バルブ		ゲート形式		ジェットフローゲート(φ300×1)				開閉装置				
設備に要求される機能		確実に開閉操作ができること												
装置区分	点検・整備			項目	内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				*6 臨時 時 合	判定方法	*8 判定	備考
	*1 重要 機器	*2 影 響 度 に 対 す る					定 期		不 定 期					
							月 点 検	年 点 検						
扉 体 駆 動 部	○	a	スピンドル	変形・曲がり		前		E	(地)	E	変形、曲がりがないこと。			
		b		損傷		前		E	(地)	E	損傷がないこと。			
		a		摩耗		前		M		M	摩耗がないこと。			
		b		油切れ		前		E		E	ネジ部にグリスが付着していること。			
保 護 装 置	b	過負荷防止機構	作動状況		前		D		D	正常に作動すること。				
	a	リミットスイッチ	作動状況		中	E	D	(雷)	D	設定値にて正常に作動すること。				
開 度 計	b	機械式	作動状況		中	E	D		D	実揚程と指針表示が合致していること。				
	c		盤面の曇り		前		E		E	表示窓が透明で、視認に支障がないこと。				

水位低下用副バルブ(本体)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器・・・○
- *2 機能上著しく影響あり・・・a
機能上影響あり・・・b
機能上影響なし・・・c
- *3 点検 E：目視、M：測定、H：触診・指触
S：聴診・聴覚、D：動作確認、W：分解
- *4 トレンド管理をする必要がある・・・○
- *5 点検条件・・・・・・前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う・・・○
地震時のみ・・・(地)
落雷時のみ・・・(雷)
洪水時のみ・・・(洪)
- *7 整備 A：調整、X：交換、U：補修
- *8 G：良好あるいは異常なし
N：異常(要処置(保全整備))
-：内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		水位低下用副バルブ		ゲート形式		スルースバルブ(φ300×1)				本体			
設備に要求される機能		締切操作ができること。											
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド 管理	*3 点 検				*6 臨 時 合	判定方法	*8 判定	備考
	*1 重要 機器	*2 影 響 度 合				定 期	不 定 期	月 点 検	年 点 検				
全 般	c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。			
	b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。			
	b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。			
本 体	b	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。			
	b		異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。			
	○	a	水密部	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。		
	a			損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。		
	○	a	摺動板	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。		
	a			損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。		
		b	弁体	摩耗		休・無水		E		M	摩耗がないこと。		
				変形		休・無水		E		E	変形がないこと。		
				損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。		
ケー シ ン グ	○	a	摺動板	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。		
	a			損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。		
		b	ケーシング	摩耗		前		E		E	摩耗がないこと。		
				変形		前		E		E	変形がないこと。		
				損傷		前		E		E	損傷がないこと。		
	○	a	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。		
	b			損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。		
b	腐食(孔食)				前		E		E	腐食(孔食)がないこと。			

水位低下用副バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
N:異常(要処置(保全整備))
-:内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	水位低下用副バルブ			ゲート形式	スルースバルブ(φ300×1)				開閉装置				
設備に要求される機能			確実に開閉操作ができること										
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				*8 判定	備考		
	*1 重要 機器	*2 影 響 能 度 に 対 す る				定 期	不 定 期	*6 臨 時	総 合			判定方法	
						月 点 検	年 点 検						
全 般		c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。		
		b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。		
		b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。		
構 造 体		b	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。		
		b		異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。		
		b	架台	たわみ		前		E	(地)	E	たわみがないこと。		
		b		変形		前		E	(地)	E	変形がないこと。		
		b		溶接部の割れ		前		E	(地)	E	割れがないこと。		
		b	ボルト・ナット	ゆるみ、脱落		前		E、H	(地)	E、H	ゆるみ、脱落がないこと。		
		b		損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。		
		b		腐食(孔食)		前		E		E	腐食(孔食)がないこと。		
	動 力 部		b	電動機	振動		中	H	H		H	異常振動がないこと。	
		b	異常音			中	S	S		S	異常音がないこと。		
		a	温度上昇			○	中	H	M		M	異常な温度上昇がないこと。	
		b	電流値			○	中	E	M	(雷)	M	大幅な変動が無く、定格電流値以下であること。	
		b	電圧値			○	中	E	M	(雷)	M	作動時の定格電圧が、±10%以下であること。	
		a	絶縁抵抗値			○	断		M	(雷)	M	絶縁抵抗計で測定を行い、1MΩ以上のこと。	
		a	内部状態			休				W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。		
		b	手動装置	作動状況		中	D	D		D	円滑に開閉操作ができること。		
		b		操作力		中		M		M	操作力が100N以下であること。		
制 動 部		b	制動機構(セルフロック)	作動状況		前				D	扉体が降下しないこと。		
減 速 装 置		b	本体(減速機)	振動		中	H	H		H	異常振動がないこと。		
		b		異常音		中	S	S		S	異常音がないこと。		
		a		温度上昇		中		H		M	異常な温度上昇がないこと。		
		a		漏油		前	E	E	(地)	E	漏油がないこと。		
		a		潤滑油量		前	E	E		E	油面計の規定内であること。		
		a		潤滑油劣化		前		E		E	ひどい濁りが無く、乳白色化していないこと。		
		a		内部状態		休				W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。		

水位低下用副バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
 *2 機能上著しく影響あり ……a
 機能上影響あり ……b
 機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
 S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
 *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
 有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
 地震時のみ ……(地)
 落雷時のみ ……(雷)
 洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
 N:異常(要処置(保全整備))
 -:内容の実施なし
 塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		水位低下用副バルブ			ゲート形式		スルースバルブ(φ300×1)				開閉装置		
設備に要求される機能		確実に開閉操作ができること											
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				判定方法	*8 判定	備考	
	*1 重要 機器	*2 影 響 度 に 対 す る				定 期		不 定 期					
						月 点 検	年 点 検	*6 臨 時	総 合				
扉 体 駆 動 部	○	a b a b	スピンドル	変形・曲がり		前		E	(地)	E	変形、曲がりがないこと。		
				損傷		前		E	(地)	E	損傷がないこと。		
				摩耗		前		M		M	摩耗がないこと。		
				油切れ		前		E		E	ネジ部にグリスが付着していること。		
保 護 装 置		b a	過負荷防止機構	作動状況		前		D		D	正常に作動すること。		
			リミットスイッチ	作動状況		中	E	D	(雷)	D	設定値にて正常に作動すること。		
開 度 計		b c	機械式	作動状況		中	E	D		D	実揚程と指針表示が合致していること。		
				盤面の曇り		前		E		E	表示窓が透明で、視認に支障がないこと。		

水位低下用副バルブ(空気管)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 … ○
- *2 機能上著しく影響あり … a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E：目視、M：測定、H：触診・指触
S：聴診・聴覚、D：動作確認、W：分解
- *4 トレンド管理をする必要がある … ○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う … ○
地震時のみ …(地)
落雷時のみ …(雷)
洪水時のみ …(洪)
- *7 整備 A：調整、X：交換、U：補修
- *8 G：良好あるいは異常なし
N：異常(要処置(保全整備))
-：内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	水位低下用副バルブ			ゲート形式	スルースバルブ(φ300×1)				空気管		
設備に要求される機能		締切操作ができること。									
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド管理	点検 *3				*8 判定	備考
	*1 重要機器	*2 影響度 機能に 対す				*5 点検 条件	定期		不定期		
						月 点 検	年 点 検	時 合	判定方法		
全 般	c	清掃状態	汚れ		前	E	E	E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。		
	b	塗装	損傷		前	E	E	E	損傷がないこと。		
	b		劣化		前		E	E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。		
空 気 管	b	構造全体	振動		中	H	H	(地) H	異常振動がないこと。		
	b		異常音		中	S	S	(地) S	異常音がないこと。		
	○	空気弁	弁体		中		D	D	充水時以外は、弁は閉状態であればよい。		
	a		止水部		中		D	D	充水完了時、弁体閉時の一時的な漏水以外の漏水がなければよい。		
	b	空気管本体	変形		前	E	E	(地)	変形がないこと。		
	b		損傷		前	E	E	(地)	損傷がないこと。		
	b	空気管本体	腐食(孔食)		前			E	腐食(孔食)がないこと。		
	b		溶接部の割れ		前		E	E	溶接部に割れ等の欠陥がないこと。		
	a	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H	(地) E,H	ゆるみ、脱落がないこと。		
	b		損傷		前	E	E	E	損傷がないこと。		
b	腐食(孔食)			前		E	E	E	腐食(孔食)がないこと。		

送水用主バルブ

点検記録表

点検区分	年点検	実施日	
------	-----	-----	--

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E：目視、M：測定、H：触診・指触
S：聴診・聴覚、D：動作確認、W：分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A：調整、X：交換、U：補給
- *8 G：良好あるいは異常なし
N：異常(要処置(保全整備))
-：内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		送水用主バルブ		ゲート形式		コーンスリーブバルブ(φ75×1)							
設備に要求される機能				低水放流時、利水放流時、貯水位低下放流時に確実な流量調節操作、締切操作ができること。									
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド管理	*3 点検				*6 臨時 時 合	判定方法	*8 判定	備考
	*1 重要 機器	*2 影響 度 合				定期	不定期	月 点 検	年 点 検				
全般		c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。		
		b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。		
		b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。		
本体		b	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。		
		b		異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。		
		○	水密部	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。		
		a		損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。		
		b	胴体	摩耗		前		E		M	摩耗がないこと。		
		b		変形		前		E		E	変形がないこと。		
		b		損傷		前		E		E	損傷がないこと。		
		b		溶接部の割れ		前		E	(地)	E	割れがないこと。		
		○	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。		
		b		損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。		
	b	腐食(孔食)			前		E		E	腐食(孔食)がないこと。			
スリーブ		○	水密部	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。		
		a		損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。		
		b	胴体	摩耗		休・無水		E		M	摩耗がないこと。		
		b		変形		休・無水		E		E	変形がないこと。		
		b		損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。		
		b		溶接部の割れ		前		E	(地)	E	割れがないこと。		
		○	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。		
		b		損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。		
		b		腐食(孔食)		前		E		E	腐食(孔食)がないこと。		

送水用主バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
N:異常(要処置(保全整備))
-:内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	送水用主バルブ			ゲート形式			コーンスリーブバルブ(φ150×1)			開閉装置			
設備に要求される機能				確実に開閉操作ができること									
装置区分	点検・整備			内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				判定方法	*8 判定	備考	
	*1 重要 機器	*2 影 響 能 度 に 対 す る	項目			*5 点 検 条 件	定 期		不 定 期				*6 臨 時 合 計
					月 点 検	年 点 検	時	総 合					
全 般	c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。			
	b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。			
	b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。			
構 造 体	b	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。			
	b		異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。			
	b	架台	たわみ		前		E	(地)	E	たわみがないこと。			
	b		変形		前		E	(地)	E	変形がないこと。			
	b		溶接部の割れ		前		E	(地)	E	割れがないこと。			
	b	ボルト・ナット	ゆるみ、脱落		前		E、H	(地)	E、H	ゆるみ、脱落がないこと。			
	b		損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。			
	b		腐食(孔食)		前		E		E	腐食(孔食)がないこと。			
	動 力 部	b	電動機	振動		中	H	H		H	異常振動がないこと。		
b		異常音			中	S	S		S	異常音がないこと。			
a		温度上昇			○	中	H	M		M	異常な温度上昇がないこと。		
b		電流値			○	中	E	M	(雷)	M	大幅な変動が無く、定格電流値以下であること。		
b		電圧値			○	中	E	M	(雷)	M	作動時の定格電圧が、±10%以下であること。		
a		絶縁抵抗値			○	断		M	(雷)	M	絶縁抵抗計で測定を行い、1MΩ以上のこと。		
a		内部状態			休					W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。		
○		手動装置	作動状況		中	D	D		D	円滑に開閉操作ができること。			
b	操作力			中		M		M	操作力が100N以下であること。				
制 動 部	b	制動機構(セルフロック)	作動状況		前				D	扉体が降下しないこと。			
減 速 装 置	b	本体(減速機)	振動		中	H	H		H	異常振動がないこと。			
	b		異常音		中	S	S		S	異常音がないこと。			
	a		温度上昇		中		H		M	異常な温度上昇がないこと。			
	a		漏油		前	E	E	(地)	E	漏油がないこと。			
	a		潤滑油量		前	E	E		E	油面計の規定内であること。			
	a		潤滑油劣化		前		E		E	ひどい濁りが無く、乳白色化していないこと。			
	a		内部状態		休					W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。		

送水用主バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日	
------	-----	-----	--

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
N:異常(要処置(保全整備))
-:内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		送水用主バルブ			ゲート形式		コーンスリーブバルブ(φ150×1)				開閉装置			
		設備に要求される機能			確実に開閉操作ができること									
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド 管理	*5 点検 条件	*3 定期		*3 不定期		*6 臨時 時 合	判定方法	*8 判定	備考
	*1 重要 機器	*2 影 響 度 に 対 す る					月 点 検	年 点 検	総 合					
扉 体 駆 動 部	○	a b a b	スピンドル	変形・曲がり		前		E	(地)	E	変形、曲がりがないこと。			
				損傷		前		E	(地)	E	損傷がないこと。			
				摩耗		前		M		M	摩耗がないこと。			
				油切れ		前		E		E	ネジ部にグリスが付着していること。			
保 護 装 置		b a	過負荷防止機構	作動状況		前		D		D	正常に作動すること。			
			リミットスイッチ	作動状況		中	E	D	(雷)	D	設定値にて正常に作動すること。			
開 度 計		b c	機械式	作動状況		中	E	D		D	実揚程と指針表示が合致していること。			
				盤面の曇り		前		E		E	表示窓が透明で、視認に支障がないこと。			

送水用副バルブ(本体)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E: 目視, M: 測定, H: 触診・指触
S: 聴診・聴覚, D: 動作確認, W: 分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A: 調整, X: 交換, U: 補綴
- *8 G: 良好あるいは異常なし
N: 異常(要処置(保全整備))
-: 内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	送水用副バルブ			ゲート形式	スルースバルブ(φ75×1)				本体		
設備に要求される機能			締切操作ができること。								
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド管理	点検 *3				*8 判定	備考
	*1 重要機器	*2 影響度 合				定期	不定期	*6 臨時	総合		
			月点検	年点検	時						
全般	c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。	
	b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。	
	b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。	
本体	b	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。	
	b		異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。	
	○	水密部	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。	
			損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。	
	○	摺動板	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。	
			損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。	
	b	弁体	摩耗		休・無水		E		M	摩耗がないこと。	
			変形		休・無水		E		E	変形がないこと。	
			損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。	
ケーシング	○	摺動板	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。	
			損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。	
	b	ケーシング	摩耗		前		E		E	摩耗がないこと。	
			変形		前		E		E	変形がないこと。	
			損傷		前		E		E	損傷がないこと。	
	○	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。	
			損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。	
			腐食(孔食)		前		E		E	腐食(孔食)がないこと。	

送水用副バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
N:異常(要処置(保全整備))
-:内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	送水用副バルブ			ゲート形式			スルースバルブ(φ150×1)			開閉装置			
設備に要求される機能				確実に開閉操作ができること									
装置区分	点検・整備			項目	内容	点検 *3						判定	備考
	*1重要機器	*2影響能度に対する	*4トレンド管理			*5点検条件		*6臨時		*8			
						定期	不定期	月点検	年点検		総合		
全般	c	清掃状態		汚れ	前	E	E	E	E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。			
	b	塗装		損傷	前	E	E	E	E	損傷がないこと。			
				劣化	前	E	E	E	E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。			
構造体	b	構造全体		振動	中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。			
				異常音	中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。			
	b	架台		たわみ	前	E	(地)	E	E	たわみがないこと。			
				変形	前	E	(地)	E	E	変形がないこと。			
				溶接部の割れ	前	E	(地)	E	E	割れがないこと。			
	b	ボルト・ナット		ゆるみ、脱落	前	E、H	(地)	E、H	E、H	ゆるみ、脱落がないこと。			
				損傷	前	E	E	E	E	損傷がないこと。			
				腐食(孔食)	前	E	E	E	E	腐食(孔食)がないこと。			
	動力部	○	電動機		振動	中	H	H	H	H	異常振動がないこと。		
				異常音	中	S	S	S	S	異常音がないこと。			
				温度上昇	○	中	H	M	M	M	異常な温度上昇がないこと。		
				電流値	○	中	E	M	(雷)	M	大幅な変動が無く、定格電流値以下であること。		
				電圧値	○	中	E	M	(雷)	M	作動時の定格電圧が、±10%以下であること。		
				絶縁抵抗値	○	断	M	(雷)	M	M	絶縁抵抗計で測定を行い、1MΩ以上のこと。		
○		手動装置		内部状態	休				W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。			
				作動状況	中	D	D	D	D	D	円滑に開閉操作ができること。		
				操作力	中	M	M	M	M	M	操作力が100N以下であること。		
制動部	b	制動機構(セルフロック)	作動状況	前				D	扉体が降下しないこと。				
減速装置	○	本体(減速機)		振動	中	H	H	H	H	異常振動がないこと。			
				異常音	中	S	S	S	S	S	異常音がないこと。		
				温度上昇	中	H	M	M	M	M	異常な温度上昇がないこと。		
				漏油	前	E	E	(地)	E	E	漏油がないこと。		
				潤滑油量	前	E	E	E	E	E	油面計の規定内であること。		
				潤滑油劣化	前	E	E	E	E	E	ひどい濁りが無く、乳白色化していないこと。		
				内部状態	休				W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。			
	a		変形・曲がり	前	E	(地)	E	E	変形、曲がりがないこと。				

送水用副バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
N:異常(要処置(保全整備))
-:内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	送水用副バルブ			ゲート形式	スルースバルブ(φ150×1)				開閉装置				
設備に要求される機能			確実に開閉操作ができること										
装置区分	点検・整備			点検 *3						*8	備考		
	*1 重要 機器	*2 影 響 能 度 に 対 す る	項目	内容	*4 ト レ ン ド 管 理	定期		不定期				判定方法	判定
			*5 点 検 条 件			月 点 検	年 点 検	*6 臨 時	総 合				
扉体 駆動部	○	b	スピンドル	損傷		前		E	(地)	E	損傷がないこと。		
				摩耗		前		M		M	摩耗がないこと。		
				油切れ		前		E		E	ネジ部にグリスが付着していること。		
保護 装置		b	過負荷防止機構	作動状況		前		D		D	正常に作動すること。		
		a	リミットスイッチ	作動状況		中	E	D	(雷)	D	設定値にて正常に作動すること。		
開度 計		b	機械式	作動状況		中	E	D		D	実揚程と指針表示が合致していること。		
		c		盤面の曇り		前		E		E	表示窓が透明で、視認に支障がないこと。		

送水用副バルブ(空気管)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補給
- *8 G:良好あるいは異常なし
N:異常(要処置(保全整備))
-:内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	送水用副バルブ			ゲート形式	スルースバルブ(φ75×1)				空気管			
設備に要求される機能			締切操作ができること。									
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド管理	点検 *3				*8 判定	備考	
	*1 重要機器	*2 影響機能 に 対す				*5 点検 条件	定期		不定期			*6 臨 時 合
						月 点 検	年 点 検	月 点 検	年 点 検			
全般		c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。	
		b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。	
		b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。	
空気管		b	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。	
		b		異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。	
		○	空気弁	弁体		中		D		D	充水時以外は、弁は閉状態であればよい。	
		a		止水部		中		D		D	充水完了時、弁体開時の一時的な漏水以外の漏水がなければよい。	
		b	空気管本体	変形		前	E	E	(地)		変形がないこと。	
		b		損傷		前	E	E	(地)		損傷がないこと。	
		b		腐食(孔食)		前				E	腐食(孔食)がないこと。	
		b		溶接部の割れ		前		E		E	溶接部に割れ等の欠陥がないこと。	
		a	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。	
		b		損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。	
	b	腐食(孔食)			前		E		E	腐食(孔食)がないこと。		

利水放流用主バルブ

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 …… ○
- *2 機能上著しく影響あり …… a
機能上影響あり …… b
機能上影響なし …… c
- *3 点検 E : 目視、M : 測定、H : 触診・指触
S : 聴診・聴覚、D : 動作確認、W : 分解
- *4 トレンド管理をする必要がある …… ○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う …… ○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A : 調整、X : 交換、U : 補綴
- *8 G : 良好あるいは異常なし
N : 異常(要処置(保全整備))
- : 内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	利水放流用主バルブ			ゲート形式			ジェットフローゲート(φ150×1)			本体		
設備に要求される機能				低水放流時、利水放流時、貯水位低下放流時に確実な流量調節操作、締切操作ができること。								
装置区分	点検・整備			点検 *3						判定	備考	
	*1 重要機器	*2 影響度に対する合	項目	内容	*4 トレンド管理	*5 点検条件		*6 臨時				判定方法
						月点検	年点検	総	合			
全般	c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。		
	b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。		
	b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。		
本体	b	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。		
	b		異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。		
	a	スキンプレート	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。		
	a		損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。		
	b		板厚の減少		休・無水				M	測定結果により判定のこと。		
	b		腐食(孔食)		休・無水		E		E	腐食(孔食)がないこと。		
	a		溶接部の割れ		休・無水		E		E	割れがないこと。		
	a	主桁、補助桁	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。		
	a		損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。		
	b		板厚の減少		休・無水				M	測定結果により判定のこと。		
	b		腐食(孔食)		休・無水		E		E	腐食(孔食)がないこと。		
	a		溶接部の割れ		休・無水		E		E	割れがないこと。		
	a	シールリング	損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。		
	a		変形		休・無水		E		E	変形がないこと。		
	a	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		休・無水		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。		
b	損傷			休・無水		E		E	損傷がないこと。			
b	腐食(孔食)			休・無水		E		E	腐食(孔食)がないこと。			
a	摺動板	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。			
a		損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。			
b	ボンネット ボンネットカバー	変形		前		E		E	変形がないこと。			
b		摩耗		前		E		E	摩耗がないこと。			
b		損傷		前		E		E	損傷がないこと。			
a	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。			
b		損傷		前		E		E	損傷がないこと。			
b		腐食(孔食)		前		E		E	腐食(孔食)がないこと。			

利水放流用主バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
- *2 機能上著しく影響あり ……a
機能上影響あり ……b
機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
N:異常(要処置(保全整備))
-:内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		利水放流用主バルブ		ゲート形式		ジェットフローゲート(φ150×1)				開閉装置			
設備に要求される機能		確実に開閉操作ができること											
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				判定方法	*8 判定	備考	
	*1 重要 機器	*2 影 響 能 度 に 対 す る				定 期		不 定 期					
						月 点 検	年 点 検	*6 臨 時	総 合				
全 般	c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。			
	b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。			
	b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。			
構 造 体	b	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。			
	b		異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。			
	b	架台	たわみ		前		E	(地)	E	たわみがないこと。			
	b		変形		前		E	(地)	E	変形がないこと。			
	b		溶接部の割れ		前		E	(地)	E	割れがないこと。			
	b	ボルト・ナット	ゆるみ、脱落		前		E、H	(地)	E、H	ゆるみ、脱落がないこと。			
	b		損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。			
	b		腐食(孔食)		前		E		E	腐食(孔食)がないこと。			
	動 力 部	b	電動機	振動		中	H	H		H	異常振動がないこと。		
b		異常音			中	S	S		S	異常音がないこと。			
a		温度上昇			○	中	H	M		M	異常な温度上昇がないこと。		
b		電流値			○	中	E	M	(雷)	M	大幅な変動が無く、定格電流値以下であること。		
b		電圧値			○	中	E	M	(雷)	M	作動時の定格電圧が、±10%以下であること。		
a		絶縁抵抗値			○	断		M	(雷)	M	絶縁抵抗計で測定を行い、1MΩ以上のこと。		
a		内部状態			休					W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。		
○		手動装置	作動状況		中	D	D		D	円滑に開閉操作ができること。			
b			操作力		中		M		M	操作力が100N以下であること。			
制 動 部	b	制動機構(セルフロック)	作動状況		前				D	扉体が降下しないこと。			
減 速 装 置	b	本体(減速機)	振動		中	H	H		H	異常振動がないこと。			
	b		異常音		中	S	S		S	異常音がないこと。			
	a		温度上昇		中		H		M	異常な温度上昇がないこと。			
	a		漏油		前	E	E	(地)	E	漏油がないこと。			
	a		潤滑油量		前	E	E		E	油面計の規定内であること。			
	a		潤滑油劣化		前		E		E	ひどい濁りが無く、乳白色化していないこと。			
	a		内部状態		休					W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。		
a	変形・曲がり		前		E	(地)	E	変形、曲がりがないこと。					

利水放流用主バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
 *2 機能上著しく影響あり ……a
 機能上影響あり ……b
 機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
 S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
 *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
 有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
 地震時のみ ……(地)
 落雷時のみ ……(雷)
 洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
 N:異常(要処置(保全整備))
 -:内容の実施なし
 塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		利水放流用主バルブ			ゲート形式		ジェットフローゲート(φ150×1)				開閉装置		
設備に要求される機能		確実に開閉操作ができること											
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				判定方法	*8 判定	備考	
	*1 重要 機器	*2 影響 能に 対す る				定期		不定期					
						月 点 検	年 点 検	*6 臨 時	総 合				
扉体 駆動部	○	b	スピンドル	損傷		前		E	(地)	E	損傷がないこと。		
				摩耗		前		M		M	摩耗がないこと。		
				油切れ		前		E		E	ネジ部にグリスが付着していること。		
保護 装置		b	過負荷防止機構	作動状況		前		D		D	正常に作動すること。		
			a	リミットスイッチ	作動状況		中	E	D	(雷)	D	設定値にて正常に作動すること。	
開度 計		b	機械式	作動状況		中	E	D		D	実揚程と指針表示が合致していること。		
				c	盤面の曇り		前		E		E	表示窓が透明で、視認に支障がないこと。	

利水放流用副バルブ(本体)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 …… ○
- *2 機能上著しく影響あり …… a
機能上影響あり …… b
機能上影響なし …… c
- *3 点検 E: 目視、M: 測定、H: 触診・指触
S: 聴診・聴覚、D: 動作確認、W: 分解
- *4 トレンド管理をする必要がある …… ○
- *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う …… ○
地震時のみ ……(地)
落雷時のみ ……(雷)
洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A: 調整、X: 交換、U: 補給
- *8 G: 良好あるいは異常なし
N: 異常(要処置(保全整備))
- : 内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	利水放流用副バルブ			ゲート形式	スルースバルブ (φ150×1)				本体			
設備に要求される機能		締切操作ができること。										
装置区分	点検・整備			点検 *3						*8	備考	
	*1 重要機器	*2 影響度	項目	内容	*4 トレンド管理	*5 点検条件	定期		*6 臨時			総合
						月点検	年点検					
全般	c		清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。	
	b		塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。	
	b			劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。	
本体	○	b	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。	
		b		異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。	
	○	a	水密部	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。	
		a		損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。	
	○	a	摺動板	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。	
		a		損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。	
	○	b	弁体	摩耗		休・無水		E		M	摩耗がないこと。	
		b		変形		休・無水		E		E	変形がないこと。	
		b		損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。	
ケーシング	○	a	摺動板	変形		休・無水		E		E	変形がないこと。	
		a		損傷		休・無水		E		E	損傷がないこと。	
	○	b	ケーシング	摩耗		前		E		E	摩耗がないこと。	
		b		変形		前		E		E	変形がないこと。	
		b		損傷		前		E		E	損傷がないこと。	
	○	a	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E, H	(地)	E, H	ゆるみ、脱落がないこと。	
b		損傷			前	E	E		E	損傷がないこと。		
b		腐食(孔食)			前		E		E	腐食(孔食)がないこと。		

利水放流用副バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 … ○
- *2 機能上著しく影響あり … a
機能上影響あり … b
機能上影響なし … c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある … ○
- *5 点検条件 … 前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う … ○
地震時のみ … (地)
落雷時のみ … (雷)
洪水時のみ … (洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
N:異常(要処置(保全整備))
-:内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	利水放流用副バルブ			ゲート形式	スルースバルブ(φ150×1)				開閉装置				
設備に要求される機能			確実に開閉操作ができること										
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド管理	点検 *3				判定方法	*8 判定	備考	
	*1 重要機器	*2 影響能度に対する				定期		不定期					
						月点検	年点検	*6 臨時	総合				
全般	c		清掃状態	汚れ		前	E	E	E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。			
	b		塗装	損傷		前	E	E	E	損傷がないこと。			
	b			劣化		前	E	E	E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。			
構造体	b		構造全体	振動		中	H	H	(地) H	異常振動がないこと。			
	b			異常音		中	S	S	(地) S	異常音がないこと。			
	b		架台	たわみ		前	E	(地) E	E	たわみがないこと。			
	b			変形		前	E	(地) E	E	変形がないこと。			
	b			溶接部の割れ		前	E	(地) E	E	割れがないこと。			
	b		ボルト・ナット	ゆるみ、脱落		前	E、H	(地) E、H	E、H	ゆるみ、脱落がないこと。			
	b			損傷		前	E	E	E	損傷がないこと。			
	b			腐食(孔食)		前	E	E	E	腐食(孔食)がないこと。			
	動力部	b		電動機	振動		中	H	H	H	異常振動がないこと。		
b			異常音			中	S	S	S	異常音がないこと。			
a			温度上昇			○ 中	H	M	M	異常な温度上昇がないこと。			
b			電流値			○ 中	E	M	(雷) M	大幅な変動が無く、定格電流値以下であること。			
b			電圧値			○ 中	E	M	(雷) M	作動時の定格電圧が、±10%以下であること。			
a			絶縁抵抗値			○ 断	M	(雷) M	M	絶縁抵抗計で測定を行い、1MΩ以上のこと。			
a			内部状態			休	W	W	W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。			
○			手動装置	作動状況		中	D	D	D	円滑に開閉操作ができること。			
b				操作力		中	M	M	M	操作力が100N以下であること。			
制動部	b		制動機構(セルフロック)	作動状況		前	D	D	D	扉体が降下しないこと。			
減速装置	b		本体(減速機)	振動		中	H	H	H	異常振動がないこと。			
	b			異常音		中	S	S	S	異常音がないこと。			
	a			温度上昇		中	H	M	M	異常な温度上昇がないこと。			
	a			漏油		前	E	E	(地) E	E	漏油がないこと。		
	a			潤滑油量		前	E	E	E	E	油面計の規定内であること。		
	a			潤滑油劣化		前	E	E	E	E	ひどい濁りが無く、乳白色化していないこと。		
	a			内部状態		休	W	W	W	W	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。		
	a			変形・曲がり		前	E	(地) E	E	変形、曲がりがないこと。			

利水放流用副バルブ(開閉装置)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器 ……○
 *2 機能上著しく影響あり ……a
 機能上影響あり ……b
 機能上影響なし ……c
- *3 点検 E:目視、M:測定、H:触診・指触
 S:聴診・聴覚、D:動作確認、W:分解
- *4 トレンド管理をする必要がある ……○
 *5 点検条件 ……前、中、後、休、断
 有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う ……○
 地震時のみ ……(地)
 落雷時のみ ……(雷)
 洪水時のみ ……(洪)
- *7 整備 A:調整、X:交換、U:補修
- *8 G:良好あるいは異常なし
 N:異常(要処置(保全整備))
 -:内容の実施なし
 塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名		利水放流用副バルブ			ゲート形式		スルースバルブ(φ150×1)				開閉装置		
設備に要求される機能					確実に開閉操作ができること								
装置区分	点検・整備			項目	内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				*8 判定	備考	
	*1 重要 機器	*2 影 響 能 度 に 対 す る					定 期		不 定 期				*6 臨 時 合 計
			月 点 検	年 点 検	月 点 検	年 点 検							
扉 体 駆 動 部	○	b	スピンドル	損傷		前		E	(地)	E	損傷がないこと。		
				摩耗		前		M		M	摩耗がないこと。		
				油切れ		前		E		E	ネジ部にグリスが付着していること。		
保 護 装 置		b	過負荷防止機構	作動状況		前		D		D	正常に作動すること。		
			a	リミットスイッチ	作動状況		中	E	D	(雷)	D	設定値にて正常に作動すること。	
開 度 計		b	機械式	作動状況		中	E	D		D	実揚程と指針表示が合致していること。		
				c	盤面の曇り		前		E		E	表示窓が透明で、視認に支障がないこと。	

利水放流用副バルブ(空気管)

点検記録表

点検区分	年点検	実施日
------	-----	-----

- *1 重要機器・・・○
- *2 機能上著しく影響あり・・・a
機能上影響あり・・・b
機能上影響なし・・・c
- *3 点検 E：目視、M：測定、H：触診・指触
S：聴診・聴覚、D：動作確認、W：分解
- *4 トレンド管理をする必要がある・・・○
- *5 点検条件・・・前、中、後、休、断
有水、無水
- *6 臨時点検 全て行う・・・○
地震時のみ・・・(地)
落雷時のみ・・・(雷)
洪水時のみ・・・(洪)
- *7 整備 A：調整、X：交換、U：補給
- *8 G：良好あるいは異常なし
N：異常(要処置(保全整備))
-：内容の実施なし
塗装劣化に関しては、総合的評価結果から対策の必要なものをNとし、必要に応じて計測記録を残す。

施設名	利水放流用副バルブ		ゲート形式	スルースバルブ(φ150×1)				空気管				
設備に要求される機能			締切操作ができること。									
装置区分	点検・整備		項目	内容	*4 トレンド 管理	点検 *3				*8 判定	備考	
	*1 重要 機器	*2 影響 度合 機能 に 対 す				定期	不定期	判定方法				
						月 点 検	年 点 検		*6 臨 時	総 合		
全般	c	清掃状態	汚れ		前	E	E		E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。		
	b	塗装	損傷		前	E	E		E	損傷がないこと。		
	b		劣化		前		E		E	発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。		
空気管	b	構造全体	振動		中	H	H	(地)	H	異常振動がないこと。		
			異常音		中	S	S	(地)	S	異常音がないこと。		
	○	空気弁	弁体		中		D		D	充水時以外は、弁は閉状態であればよい。		
			止水部		中		D		D	充水完了時、弁体閉時の一時的な漏水以外の漏水がなければよい。		
	b	空気管本体	変形		前	E	E	(地)		変形がないこと。		
			損傷		前	E	E	(地)		損傷がないこと。		
	b	空気管本体	腐食(孔食)		前				E	腐食(孔食)がないこと。		
			溶接部の割れ		前		E		E	溶接部に割れ等の欠陥がないこと。		
	a	ボルト、ナット	ゆるみ、脱落		前		E,H	(地)	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。		
損傷				前	E	E		E	損傷がないこと。			
腐食(孔食)				前		E		E	腐食(孔食)がないこと。			